（別添資料１）

事業所名　児童発達支援・放課後デイサービス　うしおたちばなプラス

支援プログラム

作成日　2025 年　12 月　2 日

法人（事業所）理念		●安心・安全な生活 ●公平・公正な 運営 ●地域への貢献		
支援方針		●障害のある人の声や思いを受け止め、本人の主体性を尊重します。 ●運営に関してその透明性を確保します。 ●障害のある人が地域のなかで普通の生活を営めるよう支援します。		
営業時間		9 時　0 分から　18 時　0 分まで	送迎実施の有無	あり　なし
		支　援　内　容		
本人支援	健康・生活	保護者様や関係機関と連携を行う事で健康状態の把握に努めながら、挨拶・片付け・靴や靴下の脱ぎ履き・トイレトレーニング等、日常生活や学校生活上で必要なスキルの習得できるよう支援する。また、積極的に運動を取り入れており、日中活動を行う事で生活リズムの獲得できるよう支援する。さらに、金銭管理や時間管理など将来的に必要なことも、遊びの中に工夫して取り入れることで、少しずつ獲得できるよう支援する。		
	運動・感覚	現在の基礎体力や運動能力の把握に努め、体操や遊びを交えたプログラムを中心に身体機能の維持向上できるよう支援する。その中でも、個人の課題に合わせたプログラムを取り入れて日常生活で実践できるように支援する。		
	認知・行動	運動機能・人間関係・コミュニケーションなど、それぞれの課題を遊びの中で認識してもらえるように支援員が工夫した声掛けを行う。その上で、児童が少しずつ実践行動に移せるように支援する。		
	言語 コミュニケーション	それぞれの児童に合わせた絵カード・指差し・サイン・身振り、筆談等の手段を活用し、最大限意思疎通ができるよう支援する。また、支援員や他の利用児とのコミュニケーションも積極的に行っていくが、難しい場合には遊びの中で少しずつコミュニケーションを取っていく等、楽しく過ごせるように工夫して支援する。		
	人間関係 社会性	福祉施設という小集団にまずは慣れていくことを最優先に支援する。その上で、他の利用児との関わりや事業所内でのルールなどを学べるよう支援する。また、人間関係や人との距離感などの把握が難しい場合には、その都度個別で面談を行う中で現在の気持ちや考えなどを確認し、少しずつ学習できるように支援する。		
家族支援		普段保護者様との接する機会に、積極的に現在抱えている悩みなどを傾聴する。また、その上で社会資源の紹介や自宅でもできる療育・トレーニングの紹介等、事業所として最大限の支援を行っていく。	移行支援	各児童の関係機関と連携をとり、進学や就業などの際にスムーズに情報共有や引継ぎが実施できるように準備をしておく。
地域支援・地域連携		学校や行政、障害福祉サービス事業所等と連携・情報共有を図り、利用者個々のニーズに合った支援を展開する。この他、同敷地内にある高齢者施設との交流なども行う。	職員の質の向上	児童発達管理責任者を中心に意見交換や情報共有の場を設け、支援上での悩みなどを解決していく。また、毎月、事業所内で研修会を開催し、新しい知識や技術の習得に努める。外部研修への積極的な参加を行う。
主な行事等		誕生日・季節ごとのイベント・外出支援・避難訓練等		